

ひだの
や ま は

いそがしい

さく・え くぼさきこまき

ひだのやまは
とってもいそがしい



ひだの やまに はるが きました
「あれ？ あそこに さいてるのは さくらかなあ」



ひだの やまに なつが きました
「みどりが いっぱいで ブロッコリーみたい」



ひだの やまに あきが きました
「わあー ブロッコリーが
いろんな いろに なってきたなあ」



ひだのやまに ふゆが きました
「やまって いつも ひまそうだな」



「いやいや ぜんぜん ひまじゃ ないんだよ」

「あ ふくろうせんせい こんばんは
やまは ひまじゃないの？ どうして？」





「たとえば やまは あめを
きれいな みずに してくれるんだよ」



「それに やまは
くうきを おいしく してくれるんだよ」



「そして やまは
みんなが あんしんして くらせる ばしょなんだよ」





「ほかにも やまは

いろんな あそびを おしえて くれたりもするんだ」



「まだ あるよ
やまは たくさんの たべものや くすりも
つくって くれるんだよ」



「そして やまは いろんなものが つくれる

きを そだてて くれるんだよ」



さあ なにつくる？

「ふくろうせんせい ぼく よく わかったよ
やまは ほんとは とっても いそがしいんだね」



飛騨にはこんな木があります

広葉樹の葉は平たい形状、楕円形、ぎざぎざの切れ込み等個性豊か。樹形はまっすぐ上にのびていく針葉樹に比べると枝分かれして育ち、その多くはこんもりと丸くなります。そして、おはなしの中にもあるように、秋になると木の葉が様々に色づき、美しい紅葉を見せてくれます。また針葉樹よりもゆっくりと成長するためにその木材は比較的重く、密度も高くてかたい材質が特徴で、食器や器具など生活に根付いているものも多くあります。森に行ったら、ぜひこんな木や葉っぱを探してみてくださいね。

ブナ<樺> 広



葉:
長さ4~10cm
幅2~4cm

幹:
高さ20~30m
直径60~70cm

ホオ<朴> 広



葉:
長さ20~40数cm
幅10~25cm

幹:
高さ20~30m
直径50cm~1m

トチ<栃> 広



葉:
長さ10~20cm
幅8~10cm

幹:
高さ15~20m
直径50~60cm

カバ<樺> 広



葉:
長さ8~15cm
幅6~10cm

幹:
高さ20~30m
直径50~80cm

シウリザクラ<朱里桜> 広



葉:
長さ7~15cm
幅3~7cm

幹:
高さ10~15m
直径30~40cm

カツラ<桂> 広



葉:
長さ3~8cm
幅3~8cm

幹:
高さ15~20m
直径50~60cm

コナラ<小櫓> 広



葉:
長さ5~15cm
幅4~6cm

幹:
高さ10~20m
直径50~60cm

ヒノキ<檜> 針



葉:
長さ1~2cm
葉はうろこ状、
尖っていない
幹:
高さ30~40m
直径60cm~1m

飛驒の山は、いろんな働きで人々の暮らしを支えてくれます

飛驒市は、その面積の90%以上が森林におおわれた山で占められています。その森林のうち68%に広葉樹の森が広がっており、全国平均の54%に比べるとかなり広葉樹が豊かであることが特徴です。では、広葉樹が多いとどのような違いがあるのでしょうか。約500種類ほどしかない針葉樹に比べて、広葉樹は約20万種類に上るといわれています。多様な樹木で構成される広葉樹の森は、お話の中で紹介されていたようにそれらを好んで集う様々な生き物たちによって生物多様性の宝庫となっており、水源涵養、空気浄化、二酸化炭素吸収、災害抑制、遺伝子保全、など様々な恵みを生み出してくれます。また、その土地ならではの文化や伝統、遊びなどを育みます。さらにそこから生み出される食べ物や薬、そして何より表情豊かな木材も私たちの暮らしに様々な形で豊かさを与えてくれます。



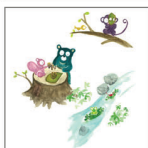
調整サービス

山には、水源涵養機能や空浄化機能があります。これにより土砂崩れや洪水が抑制されたり、空気の浄化や二酸化炭素の吸収、酸素の供給がなされます。



基盤サービス

山は、生物が安心して暮らす場所を形成し、生物多様性を保全、遺伝子を守るといったとても重要な役割も果たします。



文化的サービス

様々な遊びや文化、伝統などが育まれます。
ホオノキの大きな葉っぱでお面をつくったり、ドングリで遊んだり、ささばねも楽しめますね。



資源供給サービス

森は木材はもちろんキノコや木の実といった食料を与えてくれます。また、世界でつくられる薬の原料の約半分は自然由来で、森の恵みにもおおいに支えられています。キツネのけがにサルが張り付けているのは、ドクダミの葉っぱです。

作・絵 窪崎 小巻(くぼさき こまき)

前田建設にて長年にわたり、事務所ビル、宿泊施設、学校などの設計を担当。現在は、木造建築をはじめとした木材活用や地域連携の取組を推進、2024年飛驒市と前田建設の「地域資源の活用による持続可能なまちづくりに関する連携協定」および飛驒市・前田建設・飛驒の森でクマは踊る・ツバメアーキテクツの4者による「飛驒市の森林資源を活かす建築物木材利用促進協定」の締結にも従事。一級建築士・カラーコーディネーター。

『ひだのやまはととてもいそがしい』

発行日：2025年7月30日

発行者：前田建設工業株式会社 設計戦略部

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-18

木で建ててみよう 前田建設×木 ホームページ <https://kidetatetemiyou.com>



©2025 Komaki KUBOSAKI

